

令和3年度 自己評価実践報告書

学 校 名 福島県立福島東高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョン』について

- (1) 『学校経営・運営ビジョン』（別紙1）
- (2) 作成のねらい、意図、プロセス等

「令和3年度学校の自己評価等の進め方について」に基づいて、『学校経営・運営ビジョン』の作成及び評価を実施した。令和元年度の改善点を踏襲した。

- ① 『学校経営・運営ビジョン』の重点目標は、校長の経営方針に基づく文言に加えて、各部・学年・教科の努力目標のうち、全教職員がその意義を共有し、チームを超えて学校全体で実現に取り組みたい事項を掲げた。
- ② 『学校経営・運営ビジョン』においては、「数値目標」ではなく「指標」を掲げた。
- ③ 『学校経営・運営ビジョン』に関する自己評価の参考資料を得るためのアンケート調査においては、質問項目を精選した。
- ④ 各部・学年・教科の年度末評価（反省）の実施時期を早め、アンケート結果と併せて総括評価を第2回学校評議員会に提出できるようにした。これにより、学校評議員からの評価を踏まえて、次年度の計画策定をする時間が生まれた。
- ⑤ 全体として、学校評議員制度、人事評価制度等と学校の自己評価の体系を有機的に結びつけた。
- ⑥ 教員の日頃の探究的な取組を「可視化」するために、教員の人事評価シートに「研究テーマ」を位置づけた。

2 校内組織体制について

校務運営委員会を学校評価委員会に位置づけている。

3 自己評価等の進め方について（別紙2）

『年間計画表』作成のねらい、意図、プロセス等

II 評価結果の概要

1 各部・学年・教科の年度末評価（別紙3）

2 「学校経営・運営ビジョン」に対するアンケート調査及びその結果（別紙4、5）

(1) 調査の概要

対象	配布日	〆切日	回答率	内容
生徒	11月30日（火）	12月10日（金）	99.2%	質問は10～11項目に厳選し、評価者間の差も分析対象とした。
保護者			92.5%	
教職員	11月30日（火）	12月10日（金）	81.1%	

(2) 評価の基準

「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」の4段階評価とした。

3 年度末評価のまとめ（『ビジョン』の総括評価）

(1) 教職員による評価

① 重点①「学びの充実」

学校全体として、授業を大切にしており、チャイムtoチャイムの授業、授業交換等を行い、生徒の知的好奇心を刺激する質の高い中身の濃い授業を展開するように心掛けている。

「大学進学のための学力向上推進事業」は計画通り実施され、進路指導部は3学年と連携し情報提供に努めた。大学合格者については、2月末現在のところ、国公立大学の学校推薦型・総合選抜型の合格者数は昨年度よりは15名少なく24名であるが、新潟大学4名、富山大学1名、福島県立医科大学看護学部1名、健康保健学部各学科1名ずつ計4名と、質を伴う合格者を輩出することはできた。昨年度より大学入試制度も変わり、多様な入試への対策も行っている。しかし、大学入学共通テストの本校の平均点は全国平均を下回っていることから、まずは全国平均に近づけるように学習指導において更なる対策が必要である。

英語科においては、昨年度に引き続き外部資格試験（英検）受験を促し、英検2級、準2級に合格する生徒も見られた。今後も多くの合格者を輩出するように指導していきたい。

家庭学習時間と学習科目の時間配分等には課題がある。特に、1、2学年の平日の家庭学習時間の確保が課題である。

② 重点②「体育文化活動の充実」

多くの生徒が学習に励み、部活動を継続し、文武両道を実践している。

美術部、書道部が全国大会、陸上部、柔道部、水泳部が東北大会に出場、多くの運動部、文化部が県大会に出場し上位の成績を収めた。

また、生徒の中には、福島駅前清掃など、ボランティア活動にも積極的に参加する姿も見られた。

今後は、更に学習と部活動に積極的に取り組ませる環境を整えていきたい。

③ 重点③「キャリア教育の充実」

授業に加えて、地域社会見学、模擬選挙等、行政、地域企業等とタイアップしての取り組み、総合的な探究の時間においては、SGDsを基とした1年次はグループ研究、2年次は個人研究、3年次はキャリア教育も意識した進路研究が行われている。しかし、総合的なコミュニケーション力の育成については、不十分な面もあり、学校全体として改善の余地があると考えられる。

本校では、新体力テストA級取得者数の割合を全校で5%アップを目指しており、今年度は昨年度より2.6%増の34.6%であった。依然として30%を超えており、他校と比較しても高水準を維持している。

平成30年度より、歯科治療率100%を指標の一つとした。昨年度は1月末で31.5%、今年度は36.6%であり、昨年度よりは若干であるが増加している。ただし、歯科治療が必要な生徒の3分の1しか治療していないこと、痛み出してから遅いことを考えると、さらなる働きかけをし、歯科治療率を100%に近づけていけるように更なる呼びかけをしたい。

図書貸し出し数は、2,003冊(1/26現在)で1人あたり2.7冊であり、昨年度より2冊減っている。本校図書館の入館者数も10,949人(1/26現在)であり、昨年度は10,256人(12月末現在)であり、学級減を考慮すると昨年度とほぼ同数である。入館者数に変化がなく、貸し出し数が減った原因を見つけ、今後、どのように読書に向き合わせていくか考えていく必要がある。

スマートフォンの使用時間が長く、SNSの使い方や依存の問題は本校においても課題であり、平成30年度入学生から、オリエンテーションにおいて新入生とその保護者に、外部講師による講話を実施しているが、ここ2年間は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度は入学後に生徒のみで実施した。また、生徒指導部で資料等を作成し、生徒・保護者に配付、ホームページにも掲載し注意喚起を行った。今後も継続的に指導していきたい。

④ 重点④「情報発信の充実」

域内の中学生に対しては、東高見学会や高校説明会で「東高の教育」をアピールしている。今年度の高校説明会は、校長先生がすべての中学校に出掛け、東高の魅力を伝えることができた。今年度も昨年度に引き続き東高見学会を、2日間に分けて新型コロナウイルス感染症対策をとりながら実施し、かなりの

中学生が参加し、参加者からのアンケートでは良かったとの感想が得られた。

ホームページによる情報発信を頻繁に行い、毎日1000件以上のアクセスがあった。また、台風等の接近に伴う臨時休校等の連絡や、新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休業の際の緊急連絡メール、ホームページについては、効果的に活用することができた。

「東高通信」や「進路だより」を発行し、生徒の心の琴線に触れる投げ掛けを行ってきた。今後も継続して発行していきたい。

⑤ その他

令和元年度より45分授業から50分授業に移行し時程も変更した。次年度入学生から新教育課程となり、3年後の大学入試共通テストの教科数も増え、新たな対応も必要になるが、本校の魅力である部活動の時間を確保しつつ、文武両面での本校のよき伝統を維持するとともに、地域に慕われる特色ある学校を築いていきたい。

なお、今年度は「学校経営・運営ビジョン」に対する学校評価アンケートの生徒、保護者の回答率が更に上がった。一方、教員の回答率が15%も下がってしまった。アンケート方法を改善し、生徒、保護者、教員の回答率を上げていきたい。

⑥ 総括

今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により、時期によっては当初の計画通りの教育活動を実施することができなかった。しかし、教員は熱心に生徒と向き合い、学習活動・部活動・生徒会活動等に関わり、3年生は進路目標の達成、部活動での上位大会への進出等、各方面で成果を出すことはできた。

例年、生徒・保護者・教員に実施している「学校経営・運営ビジョン」に対する学校評価アンケートをみると、「子どもを東高に入学させてよかったと思う」という問いに対する保護者の回答は、そう思う53.0%とややそう思う35.3%を合わせると88.3%であり、昨年度よりは4%減であるが、9割近くの保護者に満足していただいている。「東高に入学してよかったか」という問いにそう思うと答えた生徒は、令和元年度の30.8%から、昨年度39.0%、今年度42.3%と増加し、今年度はそう思うとややそう思う44.0%を合わせると86.3%であり、昨年度81.1%より5%増加している。また、「文武両道」という校是が素晴らしいと思っている生徒は、令和元年度24.4%、昨年度30.6%から今年度27.8%と3%程度減少した。

一方、気になるところは、昨年度、一昨年と同様、学年によってアンケート結果に差があること、生徒の思い、保護者の思い、教員の思いに違いやずれが見られたことである。今年度は、できることから改善を試みたが、まだまだその改善が教育活動に反映しきれていないところもあった。次年度に向けて、更なる改善を図っていく。

また、不登校・長欠、学校不適應、学業・進路、友人関係の悩みでスクールカウンセラーからカウンセリングを受ける生徒が昨年度より多かった。今後、更に増えていく可能性もあるため、それぞれの悩みについて、具体的な改善策を講じる必要がある。

さらに、依然として長時間勤務をしている教員も少なくない。しかし、東高の教育目標の達成のためにはどうしても教員の力が必要である。そのためにも業務軽減を図り、健康に留意できるよう教員の働き方の改善にも努めていく。

一昨年度、本校は創立40周年を迎えた。今後は50周年に向け、本校の特徴・強みを一層伸長させつつ、その意義を入学してくる生徒に伝え、新たな伝統を築き、地域住民の思いに応えられるようバランスの良い学校経営・運営を図っていきたい。

(2) 学校評議員による評価

① 肯定的な評価

- (ア) 『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について
- ・目標がはっきりしていてわかりやすいと思います。大分類、中分類、小分類と、項目を分けると理解しやすく、書き込みを多くすることも可能かと思います。また、評価活動が上手く機能している結果が高い満足度に結びついているのだと思います。アンケート設問8をみると、できているとは思いますが、自己を過小評価しているくらいがあるのではと感じました。
 - ・『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について、4つの項目とも適切に行われていると感じられます。
 - ・4項目すべてにおいて適切だと思います。教職員の皆さんが生徒のために一生懸命取り組んでいると感じます。
- (イ) 『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について
- ・先生方のお話を聞く限り良い方向に向かっていると思います。部活動や進路の結果が示すとおり良く機能しています。
 - ・『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価についても、2つの項目ともにきちんとなされていると思われれます。
 - ・どちらも適切になされていると思います。
- (ウ) 広報とアンケート等について
- ・良いと思います。「東高だより」は非常に親しみやすい構成で、入賞も納得の結果です。
 - ・広報とアンケート等についても、上記の1ならびに2と同様に、特に広報に関しては例えば「学校案内」などから、きっちりとやられていることがわかります。
 - ・東高だより、東高通信等、紙ベースのものと、ホームページやClassi等のデジタルの両面で情報提供がされていて良いと思います。また、アンケートから学校の課題がわかり、こちらも良いと思います。
- (エ) 取組み状況全体について
- ・東高の生徒の皆さんは非常に評判が良いと思います。
 - ・取組み状況の全体についても、概ね良好と捉えられます。ここ最近の(令和3年度と令和4年度)入学者選抜の倍率を見ても、この地域において、東高が受け入れられているということはわかります。
 - ・生徒、保護者、教職員の意見がまとめられており、見直しと改善につながっていると思われれます。
- (オ) 自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善
- ・概ね良好に行われていると思われれます。生徒とその保護者だけでなく、地域の意見やニーズをもきちんと汲み取り、可能な限り、学校を含めた4者にとっての有機的なビジョンの提示とその実現化に向けて、今後も引き続き、模索して行ってほしい。
 - ・様々な取り組みを生徒に仕掛けていることがわかります。上手くいっていないところの改善も行われていると思われれます。総合探究の大切さが理解されていて、今後益々注力されることを楽しみにしています。

② 改善を要する点

- (ア) 『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について
- ・特になし。
- (イ) 『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について
- ・学校経営・運営ビジョンに対する学校評価アンケートの教員の回答で、あまり思わない、全く思わないが、1/3を超える3項目と、部・学年・教科の反省で挙げた問題点の改善を望みます。
- (ウ) 広報とアンケート等について
- ・福島東高新聞はきっちりまじめに作り込んでいます。この情報量ならフランクな内容を少し盛り込み、見開き4ページでした方が良いと思います。ホームページの充実も更に図っていただき、しょっちゅう見た

くなるような細かい旬な情報も希望します。

- ・アンケート自体はきちんと行われているということは良くわかるのですが、アンケートの結果がどのように広報などに反映されているのか、良くはわからないところがあるのが気になります。

(エ) 取組み状況全体について

- ・教職員の皆様は、次年度から業務が増えると聞いております。必要のない業務の見直しなどによる効率化で、ゆとりが生まれる事を切望します。取組みの状況全体については、非常に良い結果が出ていると思います。
- ・学校の特徴としての文武両道について、アンケートを見ると支援体制を見直す部分もあるように思われます。

(オ) 自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善

- ・先生方が3年生に注力しているのが読み取る資料でした。できれば時系列的な推移の資料も出していただけると読み取り易かったです。

③ その他

- ・コロナ禍における学校運営大変お疲れ様でした。修学旅行やスポーツ大会が開催できて本当に良かったと思います。校長先生を始め、先生方の時流を見極める力に感服です。文化部の活躍についても伺いました。同様に運動部も全国レベルの活躍を目指せるよう、指導者の確保に努めていただければと思います。
- ・入学志願者の倍率が上がっているとお聞きしましたが、学校の力、評判が上がってきている事の現れであると確信しました。校長先生は今年度で退任なされると伺いましたが留任される先生方と新任の校長先生でこれからも引き続きより良い学校経営に尽力なされる事を願います。東高の評議員に携わって東校のファンになりました。息子（5歳）もいずれこの高校に入学できればと最近思い始めました。
- ・基本的には、東高の標語ともいえるべき、「文武両道」を継続することになるかと思っています。というのも、この点は、地域・社会の方々も、強く望んでいるようなので。別に、常に新しいことを起こさなければいけないということはないはずだし、それよりも、できることをきちんとやる、そのことの方が大事だろうと思われます。
- ・昨年度の繰り返しになりますが、まずは生徒があつての学校であるという点を常に考え、頭の片隅におきながら運営や経営などを行っていただきます。学校では、生徒が中心、メインであるということは、昔も今も変わらないはずですが。大変だとは思いますが、先生方や保護者の方々が、生徒よりも前に、表に出ないように、配慮等をお願いします。
- ・ホームページだけでなく、SNS（LINEWORKS、LINE@等、学校から一步通行の情報発信）等で学校活動、部活動成績等の学校の情報を届ける取り組みは行っていただけるとありがたい。
- ・1、2年生時はどうしても部活動中心になりがちなので、入学直後に勉強の大切さを伝える必要があると思います。進学した先輩の学生生活の話や推薦の話等、入学直後から勉強しようとするモチベーションを与えることも必要だと思っています。
- ・生徒を思つてのことでありがたいのですが、教職員の仕事量の多さに驚いています。教員アンケートで見られる土曜学習等、評価の良くないものを見直しも必要かと思っています。
- ・生徒には勉強をさせる、勉強する時間を設ける働きかけが多いように思われますが、自ら勉強をする、どのように勉強をすると良いのかを考えるようになる働きかけがあると良いと思います。

Ⅲ 広報の概要

- 1 『ビジョン』、アンケート調査結果、年度末総括評価(学校評議員による評価を含む)については、学校のホームページで公表する。
- 2 アンケート調査結果については、今年度中に保護者へ文書で報告するとともに、次年度PTA総会等で配布する。
- 3 学校の教育活動全般については、ホームページの記事の更新、各種通信(『東高通信』(教務部)、ほけんだより、東高図書だより、進路だより、生徒会新聞、東高新聞(新聞委員会)、生徒会誌『まほろば』、図書館報、PTA広報紙・新聞)等で、保護者等への広報に努めている。

Ⅳ 次年度へ向けて

- 1 令和4年度の学校経営方針(素案)
 - (1) 4つの重点項目「学びの充実」「体育文化活動の充実」「キャリア教育の充実」「情報発信・共有、施設の活用」について、「豊かな人間性を備え、新たな知や価値を創造していく生徒」「地域のリーダーとなり、地域から愛される学校」を目指し、各部・学年・教科等の各部署で具体的な目標を定めて実践していく。
 - (2) 本校の歴史・現状・将来のあるべき姿と教育界の動向を踏まえ、普通科における本校の特色あるコース制として令和5年度からの教員養成コースの導入や、次年度入学生からの新教育課程に向け、本校の教育活動の質の向上を図るためのカリキュラムの改善を着実に進める。議論の中から具体化する改善策は順次取り入れて、教育の質の一層の向上を目指す。